英字新聞の読解力に関する考察

―アクティブラーニングによる基礎的コミュニケーション能力の習熟のために―

A Study of Reading Comprehension Ability Using Newspaper Articles in English: Acquiring Basic Communicative Proficiency through Active Learning

石　川　希　美

ISHIKAWA Nozomi

In August 2012, the Central Council for Education, an advisory body to the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology in Japan (MEXT), submitted a report on enhancing undergraduate education, which states that active learning should be employed at university level in order to improve the quality and learning potential of students.

Active learning is one of the key features of education in the Faculty of Sociology at Sapporo Otani University. Evoking students' active participation and involvement as well as a commitment to learn is a concern shared among faculty members. Assessing a student's ability is also important in order to evaluate their achievement and to enhance the quality of teaching.

In this paper, I examine students' reading comprehension ability. As part of class activities, 31 students read a newspaper article in English and wrote an outline of it in Japanese. The results showed a wide variety; from a brief summary to a nearly-complete translation of the whole text. Errors found in the students' writings mainly resulted from vocabulary mistakes. Finally, directions for further research are discussed.

1. はじめに

2012 年 8 月の中央教育審議会答申では，「従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から，教員と学生が意思疎通を図りつつ，一緒になって切磋琢磨し，相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り，学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学修（アクティ

ブ・ラーニング）への転換が必要」(p.9)と，大学教育の改革について質的な転換を目指す方向性を打ち出している。具体的な教育の在り方は，大学の特色や学生の状況によってさまざまであると答申にも述べられている通り，溝上（2007）もアクティブ・ラーニングとは「学生の自らの思考を促す能動的な学習」を総称するものと定義づけていて，それに相当する活動形態や内容の幅は非常に広い。一例としては，課題研究やPBL(Project/Problem Based Learning)をはじめとした専門教育が挙げられる。また,1～2 年生においては，長崎大学の山地氏が指摘しているように,「思考を活性化する」学習形態に慣れさせることや,「学習者の主体性を促進しながら実社会との関連の深い課題を探求していくなかで,専門教育や学習技能・表現技能を充実」させることは，専門教育に向かうための素地作りとして非常に重要である。

先ほどの答申では,「従来の教育とは質の異なるこのような学修のためには，学生に授業のための事前の準備（資料の下調べや読書，思考，学生同士のディスカッション,他の専門家等とのコミュニケーション等),授業の受講（教員の直接指導，その中での教員と学生，学生同士の対話や意思疎通）や事後の展開（授業内容の確認や理解の深化のための探究等）を促す教育上の工夫，インターンシップやサービス・ラーニング，留学体験といった教室外学修プログラム等の提供が必要である」(p.9)として，授業そのものだけでなく，授業前や後まで一連のつながりとしてとらえた学びの支援の必要性を説いている。

本学社会学部でもアクティブ・ラーニングを学びの特徴の一つとして掲げており，大学における教育の重要性を強く認識している。英語科目でも,教授法の点で Communicative Approach に代表されるような学習者中心の教授法に関心が集まり，また英語の運用能力が問われるようになってきた昨今の状況からも，学生が主体的に学ぶことはことさら重要である。社会学部の英語科目では，1 年生を対象とした英語Ⅰ～Ⅳ，2

年生を対象にした英語Ⅴ～Ⅷがある。今回取り上げるのは2年生の英語Ⅴと英語Ⅶで，それぞれ前期，後期開講の科目である。この英語ⅤとⅦでは英字新聞，VOAなどの時事問題を扱ったものを題材に，主に英語で読む，聞くことを通じながら，社会情勢や社会問題への知識と関心を高めることをねらいとしている。例えば，英字新聞記事が読めるようになれば，日本語の新聞記事の内容と比べてみて，情報の違いなどへの気づきを促すことにもつなげたいという思いもある。

本論文では，英語科目の授業から一つの取り組みに焦点を当て，具体的には，英字新聞の内容を日本語でまとめた概要文を取り上げながら，その結果から見える学生の状況をまとめていく。また，読む力を高める指導につなげるための課題や今後検討すべき点を考察する。

2. 先行研究

英字新聞は教材としてよく利用されており，Sanderson(1999)は英字新聞を授業で使う意義について，一般的な教育的価値（general educational value），文化的情報源（cultural information），読者の興味を喚起（reader interest），本物教材（authentic materials）といった点を挙げている。教材（teaching materials）も常に新しいものを提供できるし，学習者のレベルに応じたものを選べる(multi-level)であることも魅力である。

また，英文を読んで要約文を作成することは，読むことの指導の一部に位置づけられている。要約文を作成するには，内容のつながり，論理的な構成や情報の関連性，正確さといった細かな点まで含む理解ができていることが前提になる。よって，要約文は文章を理解できたかを単純に確認する方法だけでなく，「高度な要約ができるということは，洗練された読みの能力を備えることに等しい」と考えられている（門田・野呂・氏木(2010)）。

要約文を書く場合，英語で書く場合と日本語で書く場合が考えられるが，日本語で書かせることで「認知的負荷」を低くして，取組みやすくする足場かけ(scaffolding)の役割があると言われている（門田・野呂・氏木(2010)）。そのため，英語で読んだ内容について日本語で要約することも，学習者の状況に応じて利用してもよいものと考えられる。

前提となる英語の文章を読む力があるかどうかに注目すると，長文の概要や要点を理解することが苦手である学習者が見受けられるのも事実である。例えば，国立政策研究所「平成 17 年度高等学校教育課程実施状況調査」によると，英文を読んで概要や要点をとらえる問題で,「場面や状況を正しく理解することができないために，誤ってとらえた一部の情報にとらわれて誤答を選ぶ傾向がある」ことや,「文章の流れを理解せず，知っている成句をあてはめて解答している」との報告がある。つまり，文章を読んで全体的な内容として理解することが苦手であったり，語句などから断片的な理解をしている様子がわかる。内容理解につまずくとなると，高度で精緻な読みが十分できるとはいえないだろう。そして、一部の情報や知っている語句から勝手な理解をしているならば，語句や文法的な内容にばかり注意がむけられている可能性もある。

それでは，英文を読むにあたって，日本語を用いることをどのように扱っていけばいいのだろうか。いわゆる訳読は非難されてきたわけだが，訳読活動の問題は，訳すことはできるが内容を理解していない，もしくは内容は理解できるが日本語に直すことができないという可能性があること，また一つ一つの文は訳せても英文全体の意味は理解できていない読解スタイルを身につけてしまうこと，訳すことに時間がかかり過ぎてしまうことが指摘されている（卯城(2009)）。

しかし，実際には学習者が日本語に全く頼らずに英文をすべて理解するのはかなり難しい。門田・野呂・氏木(2010)は「「訳す」という行為は学習者自身も理解の足場として利用しているものであり，授業でも訳に

全く触れないことは考えにくいのも事実である」と指摘しており，「(1)丸暗記の訳をあてはめても通じない場合，(2)統語構造や文法を正しく理解していないために意味が曖昧になる場合，(3)日本語の発想と違う英語独自の表現について注意を払わせたい場合」(pp.82-85)に，正しい理解を確かめる目的で部分和訳を行うとしている。また，卯城（2009）は，和訳の代わりに日本語で説明させたり，日本語で要約させることで全体を訳すことの弊害を少なくすることができると述べている。

このように，読んだ英文内容を正確に理解することを助けるために，また正確かどうか確認する意味で，英語を学ぶ上でも日本語を活用している。生徒は日本語に訳すことに注意を向けてしまい，英文そのものにあまり焦点をあてていないといわれる訳読授業（Goursuch（1998））とは異なり，あくまで理解の補助として日本語を利用することに留意しておく必要がある。

3. 調査の方法

3.1 調査対象者と授業について

今回，後期開講の英語Ⅶの履修者 2 年生 33 名のうち，当日出席していた 31 名が対象者となった。

3.2 タスク

英字新聞記事を読んで，日本語で概要をまとめるタスクを実施した。日本語で書かせたのは,英語で読んで理解した内容を再現しやすいこと，また，授業中に英語で要約を書くという活動は取り入れていなかったことから判断した。

作業時間は 40 分で，日本語で書くにあたり字数制限は設けていないが，文は手書きである。各自パソコンが利用できる環境であったため，必要に応じて翻訳サイトや辞書サイトを参考にすることは可能であり，

実際使用していた様子も見受けられた。授業時に持参している電子辞書を使用している学生もいた。今回は，辞書などの助けを得ながらでも自力でどの程度理解できているかに注目したため，特に使用を制限していない。

3.3 英字新聞記事

このタスクに使用された記事は，The Japan News（2013 年 10 月 1 日付）に掲載されたもので，2 つの記事を合わせて 1 つの囲み記事として構成されていた（資料 1 参照）。一つは“Biggest Uniqlo outlet opens in Shanghai”で，もう一つは“1st Australian store to open”である。記事の掲載時期からわかる通り，授業時にその場で配布されたものである。学生に配布したものは，実際の新聞を切り抜いてあり，写真も掲載されていた。

二つの記事を合わせた囲み記事全体は，発信元の地名と通信社名を除いて，語数が 310 語，パラグラフ数が 12，文数は 15 センテンスである。語数から見れば，それほどの長文記事ではない。しかし，ひとつひとつの文自体は長いものもあり，一つの文の中に多くの情報が記される新聞記事の特徴を示している。また，読みやすさの指標である Flesch Reading Ease は，評価点 0～100 のうち数値が大きいほど読みやすいとされているが，この記事は 42.8 と低めである。さらに，読み物がアメリカにおいてどの学年で扱うのが適切なのかを示している Flesch-Kincaid Grade Level については，12.4 と高い数値である。これらを考慮すると，語数からはわからなかったが，学生にとっては読むのが難しいと思われた可能性がある。

3.4 分析方法

学生の文章は手書きで作成されていたため，データ化するにあたり，

すべての文章を打ち込みテキスト化した。文数の数え方は，ヘッドラインは 1 文，それ以外は基本的にマルまでを 1 文として数えた。また，文が途中まで書かれている場合も 1 文とみなした。

英字新聞記事についても，パラグラフごとに番号をつけて，日本語の要約文と英文中の対応箇所を調べた。ここでは，ヘッドラインも 1 つのパラグラフ，1 センテンスとみなしている。

4. 調査結果

学生の作成した文の語数とセンテンス数は表 1 の通りである。語数は，最大 526 字，最小 95 字，平均 201.9 文字である。文数は，最大 12 センテンス，最小は 2 センテンス，平均 6.94 センテンスである。例 1，2 からもわかる通り，語数の多少から言えることは，語数が多いほど全訳に近いもので，内容を日本語で説明しているものと言った方が近い。パラグラフごとに新しい情報が提示されるという新聞記事の特性と関係があるかもしれないのだが，全体として学生は読んで理解した内容についてできる限り日本語で書き出したようにも受け取れる。

表 1　日本語文の文字数とセンテンス数

文字数	人数	%
331 以上	5	16.13
330～301	1	3.23
300～271	4	12.90
270～241	3	9.68
240～211	4	12.90
210～181	4	12.90
180～151	5	16.13
150～121	3	9.68
120～91	2	6.45
計	31	100

センテンス	人数	%
2	1	3.23
4	5	16.13
5	5	16.13
6	3	9.68
7	2	6.45
8	6	19.35
9	6	19.35
11	2	6.45
12	1	3.23
計	31	100

※1,3,10 センテンスは該当者なし

例１　語数の少ない解答

ファストリテイリング社が上海の中心地に世界最大の直売店を月曜日にオープンした。ユニクロのビルの中にファストリテイリングの４つのブランドを入れそのグループは上海で国際的なブランドと認められた。　（95 語）

例２　語数の多い解答

上海時事　　月曜日，上海中心に世界最大のユニクロ直販店がオープンした。そのビルにはほかにも”ジーユー”など４つのブランド店も入っており，上海の中で世界のカジュアルファッションの中でもユニクロが存在感を増していることを表している。ジーユーが海外に出店したのは初めてである。このユニクロは上海オープン前最大だった東京銀座の 5000 ㎡と比べて 6600 ㎡の広さを誇る。他の４つとも併せると 8000 平方メートルにもなる。オープンの午前 10 時前には約 2000 人もの人が行列を成した。ある 27 歳の買い物客は尖閣諸島問題で日中関係が悪くなった後もユニクロ商品を買ったという。この新しいユニクロは上海で 46 番目にできたもので，8 月末現在中国本土にユニクロストアは 225 ある。ユニクロは 2020 年までに中国に 1000 店舗を構えるべく，1 年に 80 から 100 のユニクロストアをオープンする計画だ。

「オーストラリア１号店オープン」

AFP 時事

日本のファストファッションブランド『ユニクロ』の経営者が来年初め，メルボルンにオーストラリア１号店を出店すると発表した。

小売業者がいうにはユニクロはメルボルンの中心部にある最新大型商業施設にできるそうだ。これは世界規模の発展（世界 1200 店舗，全アジア，ロンドン，NY）を続けるユニクロの最新の動きである。　（526 語）

また，表２のように，それぞれの文の内容についてはパラグラフ 2～5 についてまとめている場合が多く，これは１つ目の記事について書いてあることを意味する。

要約の程度としては，二つのパラグラフをまとめたり，一つのパラグラフ内の２文をまとめたりしたものも少数であるがみられ，例３と４のように，実際にまとめられたものは，要約らしく情報を整理して書いていることがわかる。例３は４パラグラフの２つの文を一文にまとめたケ

ース，例 4 は 4 パラグラフと 5 パラグラフの内容を要約したケースである。

表 2　要約している箇所

パラグラフ		件数	パラグラフ		件数
1		11	7	全体	4
2		26		1 文目	3
2&3		1		2 文目	7
3	全体	8	7&8		1
	1 文目	18	8		19
	2 文目	10	9		6
4	全体	6	10		13
	1 文目	19	11		4
	2 文目	7	12		14
4&5		2	箇所判断できず		6
5		20			
6		11			

※1 パラグラフに 2 文書いている場合は 2 件となる。
そのため、人数としては延べ人数である。

例 3　一つのパラグラフ内の複数の文を一文にまとめた解答例

このユニクロの建物には同社の運営する GU などのブランドも出店しており，GU は海外で初めての出店となる。このアウトレットには 8,000 平方メートルの売り場面積を有しており，同ブランドの銀座店よりも広大な売り場面積を有している。　※下線は引用者が追加。

例 4　二つのパラグラフについて一文にまとめた解答例

ユニクロとともに直売ブランド GU も上陸し，海外に初の GU 出店となる。上海ユニクロの売り場面積は東京銀座店を上回る最大級の大きさとなり，多くの人が朝早くからオープンをまちわびた。　※下線は引用者が追加。

ここからは，それぞれのパラグラフについて日本語文からみえる特徴的な部分をまとめていく。

1 パラグラフ目は，1 つ目の記事のヘッドラインであるが，一語ずつ忠実に訳しているものが多く見られた。その中でも,「アウトレット(店)」という英語表現をカタカナで置き換えたものが 7 件に見られる。

2 パラグラフ目は，主語部分‘Fast Retailing Co.’の「ファーストリテイリング社」が省略されているものが 15 件あった。一方，目的語の‘the world’s largest outlet of its Uniqlo casual clothing brand’については，さまざまなまとめ方が見られた。中でも「世界最大」と「ユニクロ」を組み合わせた表現が 10 件あり, 1 パラグラフのヘッドラインの内容と重なりが見られる文であることと関連があるのかもしれない。他には「アウトレット」を付け足した「世界最大のユニクロのアウトレット」は 6 件あった。その他は「世界最大のアウトレット」(2 件),「世界最大のユニクロの本店」(2 件) などである。また，文としては「上海にユニクロが開店した」という趣旨になっているものが多い。そのため,「ユニクロ」という語句はどの文でも必ず書かれていた。

3 パラグラフ目は，特に 1 文目の前半部分をまとめているものが多く見られ，and 以下の後半の内容について書いたと判断できるものは 6 件と少数であった。主語の‘The Uniqlo building’については，「(ユニクロの) 建物」または「(ユニクロの) ビル」というのが 9 件ある。それに続く‘outlets for four other Fast Retailing brands, including GU’では，前の 2 パラグラフ目では省略されていた「ファーストリテイリング社」や「アウトレット」はここでもあまり使われておらず,「ブランド」という語でまとめられている。「ユニクロのビルの中にファーストリテイリングの 4 つのブランドを入れ」とか「そのビルにはほかにも“ジーユー”など 4 つのブランド店も入っており」といった例がある。また，語句の省略があるなしに関わらず，内容として間違っているものも多い。例えば,「ユニクロは 4 つの GU などのブランドを含むグループを経営している」,「その建物にはたくさんの世界のカジュアルファッションブラン

ドがある」などである。ファーストリテイリング社と書く代わりにユニクロとまとめているように見受けられる。

4 パラグラフ目は，上海店と銀座店との対比がわかるようにまとめてある。1 文目について数値を書いてあるものが 17 件あった。さらに,「ユニクロのフロアは 6,600 平方メートルある。銀座よりも上海の方が大きい。」といったように，部分的には自分の言葉に置き換えてまとめているものもみられる。数値が書かれているものは，4 パラグラフ全体をまとめている場合で 5 件，2 文目を書きだしてある場合は全件で記述されていた。

5 パラグラフ目は，‘in front of the building’に相当する部分が省略されている件が多く, 書かれていたのは 6 件であった。「10 時」,「2000 人」といった数値は全件で書かれてあった。

6 パラグラフ目は，文を丸ごと和訳しているものが多い。主語の‘a 27-year-old customer’について，原文通りに「客」と書いてあるものが 7 件見られるが，そのうち 1 件は「女性客」とあり，後に続く部分を読んで理解したうえでの表現になっている。後半の‘even after Sino-Japanese relations soured due to the territorial row over the Senkaku Islands’の部分について, 特に動詞‘soured’の部分について,「ぎくしゃくした」という表現を使ったものが 6 件，直訳に近い「悪化した」（3 件）より多い。

7 パラグラフ目は, 1 文目の主語‘The new Uniqlo outlet’は「(新しい) ユニクロ」が 5 件，‘outlet’を「アウトレット」と書いてあるのは 2 件だけで訳されていない。このパラグラフだけは，2 文目を書きだしている件が多く,「8 月末現在」や「ファーストリテイリング社」の内容は省かれている場合もある。しかし，ユニクロが中国国内に「225」店舗あるという数字は全件に共通してあげられている。

8 パラグラフ目も, 7 パラグラフ目と同様に数値は必ず書かれている。

主語の‘the company’を「(中国の) 会社」と書いてあるものが 7 件,「ユニクロ」が 4 件,「ファーストリテイリング」が 2 件である。内容はおおむね正確にとらえている。

9 パラグラフ目は, 2 つ目の記事のヘッドラインであるが,「オープン」,「開店」という体言止めが 4 件あった。「オープンする予定」とこれから開店する(まだ開店していない)意味合いがわかる表現は 1 件だった。

10 パラグラフ目は, ‘The operator of Japanese cheap-chic clothing chain Uniqlo said Monday’までの内容が省略されているものが多く見られる。「オーストラリア」,「メルボルン」といった地名や,「開店する」といった内容が書かれているが, ‘it was branching out’部分の訳は少なく, 動詞部分については,「開店する」「初出店する」,「1 号店ができる」といったヘッドラインにある表記に近い内容で書いてあるか,「(ユニクロは) オーストラリアにも進出する」といったものが見られた。

11 パラグラフ目は,「ファーストリテイリング社が声明で発表した」とあるのは 1 件である。内容全体については, 正しく理解できたと判断できるものはなかった。

12 パラグラフ目も,「1200 店」という数値は 9 件で挙げられているが, 特に and 以下の部分で「アジアで出店した後にロンドンやニューヨークにも出店する」という間違いが 6 件あった。

5. 考察

学生のまとめた概要文からは, 一部の語句などを省略したり, 簡潔な表現にしている要約らしい部分も見られる。ただし, 内容理解の観点からは, 語彙・語句の理解を誤ったり, また語彙の誤りが文全体の理解に影響与えていると思われる点が見られる。

まず, 語彙・語句レベルの理解について, 卯城(2009)は語彙の誤りは英文の正しい理解を妨げてしまう要因となることを指摘しているが, 今

回の事例はその通りの状況を示している。例えば，outlet を「アウトレット」とカタカナで表記された言葉に置き換えたものが見られた。「アウトレット・（ショッピング）モール」，「アウトレット店」と書かれている場合もある。これは英語の語彙として持つ意味ではなく，日本語（カタカナ）にはいってきた外来語の意味として理解している可能性があるだろう。今回の記事においてはユニクロの「直販店」の意味であり，一部の学生の解答からは，売れ残りや規格外品を安く売っている「アウトレットストア」，そういった形態の店が集まっている「アウトレットモール」という意味合いで outlet の意味で捉えていて，英語の語彙の持つ意味で理解していないことが考えられる。

また，日本語で書いた文から，ユニクロというブランド名，店舗が入っている建物，またはユニクロブランドを展開しているファーストリテイリング社までを，「ユニクロ」という言葉で代用していることがわかる。英文中でも‘its Uniqlo casual clothing brand’, ‘the Uniqlo building’, ‘the Uniqlo outlet’などのように様々な組み合わせで出てくるのだが，日本語でまとめた場合には，すべて「ユニクロ」で置き換えられている点は特徴的である。断定的には言えないが，「ユニクロ」を「ファーストリテイリング社」も含む上位語と位置付けられているようにみえる。

語彙が文全体の理解に影響を与える例としては，センテンスが長くなるとその傾向がみられる。8 パラグラフ目のように一文が長い場合には，訳するのが難しくなるのか，日本語の文からは正しく内容を理解できていないと思われる。最後の 12 パラグラフ目では，follow(s)の意味だけでは「～に続く」という表現がみられるが，文全体の要約でみると内容を取り違えている。文の内容理解レベルでは正確ではない事例である。

最後に，半数以上の学生は 2 つの記事のうち前半の記事に関する内容のみをまとめていることから，前半の内容を重視したとも考えられるし，記事全体を読めなかった可能性も考えられる。

6. 今後にむけて

英字新聞記事を「読む」ことについて，ヘッドラインとリード部分や，記事を読んでおおまかに理解するということは，学生が取り組める課題だっただろう。一方，理解の不確かな点は，語彙や構造理解が要因となっているので，日本語をうまく使って理解を助けるために，精読や和訳の扱いが課題である。

素早く読んで大まかな理解ができることでよしとするか，中身の細かなところまでをじっくりと正確に読んでいくのかといった観点では，どちらかといえば授業では大まかな理解を中心にとりあげている。読む力をつけるという点では，内容理解の正確さという観点からも読む指導をすることも検討課題になるだろう。

アクティブ・ラーニングとの関連としては，読んで概要をまとめるといった内容は，読むスキルを定着させることを目的としたアクティブ・ラーニングと位置付けられる。今回の事例では英文を読むことの指導に対する課題が多いのだが，日常的に繰り返し練習を積ませるとか，活動内容を深化させるといったことを積み重ねてみて，今後の成果をみていきたい。

また，溝上(2007)は「アクティブ・ラーニングの質を内容（コンテンツ）という観点から高めていく場合には，カリキュラムの再組織化が重要である」(p.283)と述べているように，カリキュラム全体の点から，複数の科目を横断したり，連携したりすることによって，学びに有機的な関係性をもたせることができないか検討していくことが求められる。これについては，英語科目を通じて総合的なコミュニケーション能力を高めることを挙げていることからも，一科目としてではなく英語科カリキュラム，下位学年（1,2 年生）カリキュラム，社会学部カリキュラムといった大局的な見地からも考えることが求められる課題といえる。

また，今回調査できなかった点について，①辞書や翻訳サイトなどの助けなしでは，内容理解・要約はどの程度可能か？②英字新聞の内容（テーマ）や読みやすさのレベルは内容理解に影響を与えるか？という２点を今後の研究課題として挙げておく。

[参考文献]

中央教育審議会「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け，主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）」（平成２４年８月２８日）（2014/1/28 アクセス）
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afieldfile/2012/10/04/1325048_1.pdf

Goursuch, G. 1998 "*Yakudoku* EFL Instrucion in Two Japanese High School Classrooms: An Exploratory Study," *JALT Journal*, Vol. 20, No. 1, May, 1998 p.6-32

門田修平・野呂忠司・氏木道人（編著）2010『英語リーディングハンドブック』大修館書店

国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部研究開発課,「平成17 年度高等学校教育課程実施状況調査（英語Ｉ）」（2014/1/20 アクセス）
http://www.nier.go.jp/kaihatsu/katei_h17_h/h17_h/05001051140004000.pdf

溝上慎一 2007「アクティブ・ラーニング導入の実践的課題」『名古屋高等教育研究』第 7 号，pp.269-287

Sanderson, P. 1999 *Using Newspapers in the Classroom*, Cambridge University Press

卯城祐司（編著）2009『英語リーディングの科学』研究社

山地弘起「アクティブラーニングの実質化に向けて」『アクティブラーニング事例集１』長崎大学教育イノベーションセンター（2014/1/20アクセス）
www.redc.nagasaki-u.ac.jp/teacher/Int_yamaji.pdf

（いしかわ　のぞみ，札幌大谷大学社会学部准教授）

資料１　新聞記事

The Japan News, October 1, 2013

Biggest Uniqlo outlet opens in Shanghai
SHANGHAI (Jiji Press)—Fast Retailing Co. opened the world's largest outlet of its Uniqlo casual clothing brand in central Shanghai on Monday.

The Uniqlo building also houses outlets for four other Fast Retailing brands, including GU, and demonstrates the group's growing presence in Shanghai, home to many global casual fashion brands. The GU store is the first to be opened overseas.

The Uniqlo outlet has a sales floor space of 6,600 square meters, compared to the 5,000 square meters for the outlet in Tokyo's Ginza district, which had been the largest Uniqlo store before the Shanghai store opened. The combined floor space for the Uniqlo and four other outlets stands at about 8,000 square meters.

About 2,000 people lined up in front of the building before it opened at 10 a.m.

A 27-year-old customer said she had bought Uniqlo products even after Sino-Japanese relations soured due to the territorial row over the Senkaku Islands.

The new Uniqlo outlet is the 46th in Shanghai. As of the end to August, Fast Retailing had 225 Uniqlo stores in mainland China.

The company plans to open 80 to 100 Uniqlo stores a year in China to bring the total number in the country to 1,000 by 2020.

1st Australian store to open
AFP-Jiji

The operator of Japanese cheap-chic clothing chain Uniqlo said Monday it was branching out to Australia, with a store in Melbourne set to open early next year.

"Uniqlo has selected Emporium Melbourne, a brand new retail complex in the heart of Melbourne's city center, as the location for its first official Australian presence," Fast Retailing said in a statement.

The move is the latest step in the ongoing international expansion of the company, which has more than 1,200 stores worldwide, and follows the establishment of branches all over Asia, as well as in London and New York.